

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 羽島特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年11月28日(木) 13:00~15:00
- 3 開催場所 羽島特別支援学校 会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|-------------------|
| 委員 | 野口 和彦 | 大浦区長 |
| | 平井 崇広 | 万灯会まさき園施設長 |
| | 豊島 裕香 | 羽島市主任児童委員 |
| | 長澤 敦 | 長谷虎紡績株式会社総務部長(欠席) |
| | 坂倉 恒光 | グランド川村店主 |
| | 山田 和恵 | P T A会長 |
| 学校側 | 廣瀬 雅行 | 校長 |
| | 横山 知加子 | 事務部長 |
| | 由井 真紀子 | 教頭 |
| | 北川 貴美 | 教頭 |
| | 河野 美由紀 | 小学部主事 |
| | 岩井 美喜子 | 中学部主事 |
| | 岡田 一朗 | 高等部主事 |
| | 細江 紀吉 | 教務主任 |
| | 成瀬 朋子 | 作業主任 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 校長より

- ・先週の予定であったが、急な変更への対応に感謝している。
- ・今年度、コロナ禍が明け、外での活動を行っていきたいと伝え、児童生徒たちは、外での活動で人や物に触れ活動してきた。本当に良い経験であった。
- ・人事面談を行う中で、職員の話聞き子どもたちの成長を感じることができた。
- ・羽島市地域密着情報誌「はしまる」に当校のことが取り上げられた。
- ・少子化により、今後高校生が減少していく。来年度、都市の特別支援学校では、児童生徒数は増加する予定。当校の児童生徒数も減少しない。職員は、若手やベテランが多くなり、中堅層が少ない。今後、教育委員会でも対策を検討していく。

(2) 学校評価アンケートについて

○令和6年度学校評価アンケートについて各部及び全体の結果及び考察について説明

意見1: ホームページの閲覧は見る側がアクションをしないと更新されたかどうかわからないので、

すぐーるを利用し、更新したことを知らせてはどうか。

教職員が発信する情報（進路など）は限られているので、PTA から発信していきたい。PTA の活動に消極的な保護者が多いが、小・中・高の縦割りでの保護者の関わりを大切に思っているため、PTA の行事の情報を発信してほしい。

意見 2：小学校ではすぐーるのタイムラインを利用して情報発信している。すぐーるからホームページの情報も伝えている。

意見 3：卒業した先輩の保護者を招いて話を聞く機会を設けてはどうか。PTA だけの主催ではなく、学校側とも協働できると良いのでは。少人数でもやって良かったと思ってもらえると良いのではないか。機会を設けることが大切。

意見 4：施設での保護者との懇談では、部が変わると先生の子どもへの関わり方が変わったと言われる。小学部の方針、中学部の方針があるからではと伝えているが大丈夫か。

⇒・小学部では、先生や子どもとの関わりを大切にしている。

・中学部では、より仲間との関わりを大切にし、思春期をむかえた子どもたちの接し方を行っている。

・高等部では、社会にでた姿を見据えるので、さらに厳しく接することもある。高等部 1 年生の生徒は、中学部とのギャップを感じる生徒も多い。

・小・中・高の分かれ目を感じている保護者もいるので、考察にも述べた小中高の隔ての無いコミュニケーションが必要と考える。

・小学校、中学校、高等学校と分かれていると感じないと思うが、小・中・高と一緒に学校であると見えてしまう。学校全体の雰囲気が高めるためにも、教職員が部の壁をなくして保護者と関わり、保護者に子どもの成長を感じてもらえたら良いと思われる。

意見 5：横のつながりがもてるメリットもある。

意見 6：「あてはまらない」という課題をいかに解決していくかが大切である。

情報発信の仕方によって「わからない」という回答への解決になるのではないかと。

意見 7：近隣小学校では、今日の給食メニューをすぐーるで紹介している。

意見 8：すぐーるの利用が課題である。すぐーるを活用することで、「わからない」が減っていくのではないかと。

⇒すぐーるの前の「すぐメール」では主に緊急時の連絡として利用していた。そのイメージが残っている。今後は情報発信の方法として活用の仕方を考えていく必要がある。

意見 9：小学校では、お便りが PDF 化されてすぐーるで届く。

(3) 今年度の教育活動について

○5月から11月までの教育活動の様子を画像を交えながら説明

- ・小学部主事より
- ・中学部主事より
- ・高等部主事より

(4) その他

○高等部作業製品の価格について

- ・写真立て・・・木製品 70 ⇒ 木製品 50 にし、価格は 500 円
- ・写真立て (大)・・・木製品 80、価格 800 円
- ・縫製班の品名を布製品に統一
- ・喫茶食品班のテイクアウトドリンクを追加
⇒それぞれ承認された。

(5) 委員よりご意見等

意見1：アンケートについて、細かくよく考察されていた。今回、各部の教育活動の様子を見て、学校の様子がよくわかった。今後はホームページ等を見て情報収集し、アンケートに答えたい。

意見2：子どもたちが生き生きとしている。校外活動では、体験を通してこれまで知らなかったことを経験することができている。外での活動は五感を育むことができる。いろいろな経験が社会性に結び付くと感じた。

意見3：小学部から高等部まで、順に階段を上がっていくように教育活動が行われている様子がよくわかった。学校評価アンケートでは、数年前に比べると回答内容に変化が見られる。よく努力されているのがわかった。

意見4：近隣の小学校の5年生が電車に乗って岐阜へ行くという活動を行っていたが、とても大変そうだった。小学部4年生がチケットを使って乗り物に乗る体験はとても良い経験だと思う。また、2週間ごとの学年通信の配付はよく工夫されていると思った。

意見5：子どもたちの成長を感じた。今後はすぐーるの活用を考えてほしい。学校からの発信で保護者とのつながりをもてると良いと思う。

校長：すぐーるの活用は検討していきたい。また、校内での模擬体験や校外学習での体験を通じた教育活動をこれからも行っていきたい。来週は学校祭がある。是非ご参観ください。

6 会議のまとめ

- ・学校評価アンケートの結果と考察の報告においては、情報発信の必要性についてご意見を得た。特にその方法について、すぐーるを活用した具体的な方法や内容に関する実践の様子をご紹介頂き、活用に関するご意見を得ることができた。今後、当校においてもすぐーるの活用を含め、情報発信について検討していきたい。
- ・各部の教育活動の様子については、小学部・中学部・高等部の様子を具体的に伝えることで、現状や連続性の中での段階的な指導内容の違いについてご理解いただいた。
- ・高等部生徒の追加の作業製品価格について協議を行い、承認を得ることができた。